

2月校長講話要旨

○二月は逃げる

「二月は逃げて走る」、「三月は去る」といわれるように、2月3月はあっという間に時間がたつようです。本校では今月中旬に定期考査があり、すぐに3月に入り、高校の卒業式、課題研究発表会、中一の学習発表会、中学校の卒業式、修了式と行事が続いて学年末を迎えてしまいます。気を引き締めて学年末の日々を過ごしましょう。

○暦の話

今月2月は29日まであります。今年は閏年ですね。

今日は、月・暦のことについて、少しお話をしましょう。現在、日本で使われている暦は、太陽暦のグレゴリオ暦といいます。これは西ヨーロッパやアメリカなど多くの国が使用している暦です。

このグレゴリオ暦は、ユリウス暦を改良したものです。ユリウス暦の月の名まえが、現在の英語の月の名前の由来になっています。グレゴリオ暦というのは16世紀のローマ・カトリック教会の法王グレゴリウス13世の名前から取っていますが、ユリウス暦の Julius とは古代ローマのガイウス＝ユリウス＝カエサル (Gaius Iulius Caesar) に由来します。英語では、ジュリアス＝シーザーと読みます。

ローマ共和政でのユリウス＝カエサルは、事実上の単独支配を確立して、終身独裁官（ディクタトル）となり、帝政ローマの基礎を築きました。これを引き継いで実際にプリンキパトゥス（帝政）を開始したオクタウィアヌス（アウグストゥス）もまた、カエサル家の養子となり、皇帝による政治、帝政を確立しました。アウグストゥスは自分の後継者も養子としてカエサルの名を継がせて、ユリウス＝クラウディアス朝の皇帝たちは皆、カエサルの家族名を持っていました。このため「カエサル」は皇帝の家族名であると同時に皇帝そのものを指す一般名詞になり、カエサル (Caesar) の名はローマ皇帝を指す語として長く使われてきました。ヨーロッパ各国では皇帝を意味する語として「カエサル」に由来する単語が使用されています。代表的なものとして、ドイツ語のカイザー、カイゼル (Kaiser) やロシア語のツァーリ (Царь, Tsar)、フランス語ではセザール (César) になります。フランスでは男性がつける一般的な名前になっているようです。

このユリウス＝カエサルが今から2千年以上前の紀元前46年に、ローマに制定した暦で、太陽の進行に合わせて、1年を365日と4分の1にして、4年に1度、366日の年、閏年を置くことで、暦の進行を調節しました。

この時代のローマでは、1年の始まりがマルチウス、英語で言うと March (マーチ) です。マーチは何月ですか？現在の3月ですね、3月が始まりの月、年の終りの月がフェベラリウス、February (フェブラリー)、今の2月だったので、年末のフェベラリウスで閏年を入れました。その時は、フェベラリウスは29日までで、閏年のときだけ30日にして調節しました。そしてカエサルは、7月を自分の名前ユリウス、英語ではジュリアスと名付けました。現在の7月・July (ジュライ) です。

さらに、このユリウス暦を一部改良した皇帝アウグストゥス Augustus が、フェベラリウス、フェブラリー、2月からさらに1日とって、ある月に自分の名前をつけました。アウグスト、英語では August (オーガスト) になります。オーガストは何月ですか？8月ですね。8月を31日まである月にしま

した。本来31日まである大の月と、30日までしかない小の月は、奇数月が大の月、偶数月が小の月になるように交互にしていたのですが、アウグストゥスのおかげで、7月、8月と連続して大の月になり、2月が28日までになりました。

これが現在でも続いている暦の原型です。この後、16世紀に太陽の進行とのズレを調整するため、グレゴリオ暦に直されました。

現在の日本の暦で大の月小の月の覚え方を、「ニシムクサムライ」といいます。小の月は2月4月6月9月11月です。11を漢字で書くと十一、この字を組み合わせると武士の「士」になるので、十一＝士をサムライと読みます。なお、月の英語読みやつづりについては、自分で確認しましょう。

もうひとつ、現在のこのグレゴリオ暦が世界のすべての時間を決めているわけではありません。イスラム暦や、ロシア正教暦などがあります。ロシア正教暦は、ユリウス暦をそのまま継承しているので、現在われわれが使用しているグレゴリオ暦より2週間ほど遅れてずれています。「年末年始にロシアがウクライナへの攻撃を激化させた」というニュースが年明けにありましたが、ロシアとしてみればクリスマス前の攻撃であり、新年早々の攻撃ではないという認識なのでしょう。また、日本や中国など東アジア諸国で使う太陰太陽暦、いわゆる旧暦では、今年は2月10日が今年の初め1月1日になります。

中華民国・台湾も含めて中国では現在でも旧暦が生活の中心です。今年、2024年は2月10日が春節、お正月で、これから盛大にお祝いをすることになるでしょう。世界にはいろいろな暦があり、時間・時計があるということは知っておいて無駄になりません。自分たちの知っている「常識」だけがすべてではないということ、このことから理解しておいてください。

○生徒会が募金活動をしました

令和6年能登半島地震に際して、生徒会が呼びかけて1月中旬に募金活動を行いました。金額の多寡はおいて、皆さんの身持ちを被災された方々に届けたいと思います。困ったときはお互い様です。私たちもどこかで、大変な思いをする時があります。

「災害は忘れたころにやってくる」とはよく言われますが、能登半島にとっては、ここにいる皆さんが生まれる前の2007年3月に最大震度6強の能登半島地震がありました。その後、2020年12月以来群発地震が続き、震度6以上を記録したのが、2022年6月、2023年5月にあり、ずっと地震に見舞われていました。今年1月1日の令和6年能登半島地震はさらに大きな打撃となってしまいました。

日本列島の近海は、北の北アメリカプレート、東の太平洋プレート、南のフィリピン海プレート、西のユーラシアプレートの4つのプレートの境界が近接しており、プレートの沈み込み運動が激しい地域の一つで、そのため地震が多いと言われています。

ざっくり言えば、日本列島は火山島の寄せ集めであり、そのおかげで温泉や、また絶景と呼ばれる素晴らしい景観や自然に恵まれています。しかし、その裏返しとして、いつどこで火山の噴火、地震や津波などの被害にあうかもしれません。

「備えあれば患いなし」といいます。日頃から災害に備えておきましょう。